

[専門教育科目/看護の展開/精神看護学]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神看護援助論 I	NSP22_008	必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
森川 三郎 他	417	s.morikawa	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	精神疾患・病態論を基に精神看護における疾病特性を理解し、精神機能障害が及ぼす生活及び身体への影響について、看護の視点から理解することを目的とする。特に統合失調症は急性期・寛解過程・慢性期の、気分感情障害は急性期・回復期の看護を身につける。さらに、神経症・心身症・症状精神病・身体合併症等の身体に関する疾患及び、アディクション疾患、発達障害等の看護と治療を理解する。学生が未経験の分野が主なので、事例や映像などを使用しながら判り易く精神科看護について示していく。授業は関連する動画を取り入れた同時双方向による遠隔授業で行う。				
学習上の助言	学習効果をあげるためには、学習内容の客観的な理解の確認と主題に関する主観的省察が必要なので、「理解の内容」及び各回の主題に関する自らの「学びの内容」について、リアクションペーパーによって言語化(文字化)することが望ましい。				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護の基礎/著:武井麻子/医学書院/2019 第5版 系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護の展開/著:武井麻子/医学書院/2019 第5版 				
参考書	看護のための精神医学 第2版/著:中井久夫/医学書院/2004				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	神経伝達物質と精神機能(知覚・思考・感情・意欲等)の関係が理解でき、説明できる	NS(2)(3)(4)			
②	統合失調症・気分感情障害等の主要な精神疾患が理解でき、看護の基本が説明できる	NS(2)(3)(4)			
③	アルコール依存症等のアディクション関連の疾患が理解でき、看護の基本が説明できる	NS(2)(3)(4)			
④	心と体の関係を理解し、神経症・心身症・症候精神病等の看護の基本が説明できる	NS(2)(3)(4)			
⑤	生物学的・心理社会的な発達を理解し、発達障害に関する看護の基本が説明できる	NS(2)(3)(4)			
⑥	身体的治療(薬物療法等)が理解でき、看護の関わり方が説明できる	NS(2)(3)(4)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	精神現象について、「神経伝達物質の働きとしての脳」と「対人交流の成果としての心」との関係を考察する。映像 30分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(ドーパミン等)について予習する。	4	
2	神経伝達物質と「知覚・思考」の関係の理解を基礎に、「知覚・思考」の異常についての看護を学ぶ。映像 2分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(セロトニン等)について予習する。	4	
3	神経伝達物質と「感情」の関係の理解を基礎に、「感情」の異常についての看護を学ぶ。映像 13分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(ノルアドレナリン等)について予習する。	4	
4	神経伝達物質と「意欲」の関係の理解を基礎に、「意欲」の異常についての看護を学ぶ。映像 10分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(非特異症状等)について予習する。	4	
5	上記 2.3.4 以外の非特異症状(睡眠障害等)、及びせん妄や認知症状等の脳器質性の症状の看護を学ぶ。映像 30分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(統合失調症等)について予習する。	4	
6	統合失調症の疫学・要因・状態像・特異症状・治療等を包括的に理解する。映像 15分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(統合失調症等)について予習する。	4	
7	統合失調症の寛解過程を理解し、各期(急性期・寛解前期・寛解後期・慢性期)に応じた看護の関わり方を学ぶ。映像 25分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(気分感情障害等)について予習する。	4	
8	気分感情障害を包括的に理解し、病態(躁状態・うつ状態)に応じた看護の関わり方を学ぶ。映像 10分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(神経症等)について予習する。	4	
9	神経症(神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害)を理解し、看護の関わり方を学ぶ。	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(アディクション等)について予習する。	4	
10	アルコール依存症・薬物依存などのアディクション関連疾患を理解し、看護の関わり方を学ぶ。映像 15分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(心身症等)について予習する。	4	
11	心身症・症状精神病・精神科身体合併症を理解し、看護の関わり方と身体的ケアについて学ぶ。	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(神経症等)について予習する。	4	
12	発達及び発達課題について包括的に理解して、発達障害全般についての関わり方を学ぶ。映像 10分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(発達障害等)について予習する。	4	
13	精神科における身体的治療(向精神薬による薬物療法及び副作用)を理解し、看護の役割を学ぶ。	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(向精神薬等)について予習する。	4	
14	精神科における身体的療法(抗精神病薬以外の向精神薬及び電気痙攣療法他)を理解し、看護の役割を学ぶ。映像 10分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。次回講義範囲(電気痙攣療法等)について予習する。	4	
15	精神科看護に関連する検査・アセスメントツール・観察について学び、15回のまとめを行なう。映像 30分	同時双方向 授業	授業資料を読み返す。	4	
試	定期試験	達成度評価・評価のポイントを参照			

[専門教育科目/看護の展開/精神看護学]

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	授業終了後に定期試験を実施して評価する。試験内容は、授業全般を通した精神看護に関する基本的な知識の理解のために択一問題及び正誤問題を出題する。また代表的疾患である統合失調症の看護に関する事例問題を出題する。総合的な理解度について記述問題を出題する。				最終の授業で試験内容の振り返り・まとめを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員: ◎森川 三郎、石野 徳子</p> <p>教員の実務経験: 20年以上の精神科臨床看護に携わった経験を持つ。</p> <p>実践的授業の内容: 授業の中に実際の事例を取り入れ、学生の現実的な理解を促している。実際の臨床現場で行なわれている看護を再現しながら看護方法を教授している</p> <p>○Teamsを使用した同時双方向型授業を行います。授業前に配布した授業資料を予習しておいて下さい。授業に動画視聴もありますので、通信容量制限がある場合は通信料に十分注意して下さい。</p> <p>○授業時間中に生じた疑問・質問は、当該授業の進行に係る場合はチャットにて相互確認をします。それ以外は、授業終了後か、リアクションペーパーによって行います。全体に関係する内容については次回の授業開始時に回答します。個別のものメール等で回答します。</p> <p>○今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。</p> <p>○本授業は、これに続く精神看護援助論Ⅱに必要となる知識・技術を中心として構成されているので、自分が臨床に立った時をイメージして、積極的に学んで欲しい。</p>							